

令和6年度 東京都内湾水生生物調査 9月成魚調査速報

●実施状況

令和6年9月27日に成魚調査を実施した。調査当日は長潮で、干潮が7時7分、満潮が15時26分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は1.3~2.1mであった。St.25、St.10で赤潮が発生しており、St.25、St.22、St.10で貧酸素状態にあることが確認された。生体の出現はSt.35のツバクロエイ、St.10のホンビノスガイ、サルボウガイのみであった。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:03-11:08		11:12-12:13		12:36-13:26		13:30-14:20	
水深(m)	25.4		14.9		14.6		8.1	
天候	雨		雨		雨		曇り	
気温(°C)	24.4		24.0		23.9		24.1	
風向/ 風速(m/sec)	N/3.7		NE/2.4		NE/2.8		N/3.8	
波浪(m)	0.4		0.3		0.3		0.2	
透明度(m)	2.1		1.3		1.9		1.5	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	25.2	19.6	24.9	22.1	25.1	20.8	25.3	23.5
塩分(-)	26.8	34.1	19.9	32.9	26.8	28.8	24.6	31.8
DO(mg/L)	8.8	4.4	9.6	0.7	9.1	3.1	11.0	2.0
DO飽和度(%)	124.1	-	129.7	-	129.5	-	153.8	-
pH(-)	8.2	7.9	8.3	7.9	8.3	7.9	8.4	8.1
水の臭気	なし	なし	微魚腐敗臭	なし	なし	なし	なし	なし
備考			赤潮が発生していた。7.0m以深で貧酸素状態(DO:2mg/L以下)が確認された。		水深11.0~13.0m付近で貧酸素状態(DO:2mg/L以下)が確認された。		赤潮が発生していた。7.1m以深で貧酸素状態(DO:2mg/L以下)が確認された。	

観測層:上層(0m)・下層(海底面上1m)。DO飽和度は上層のみ計測。

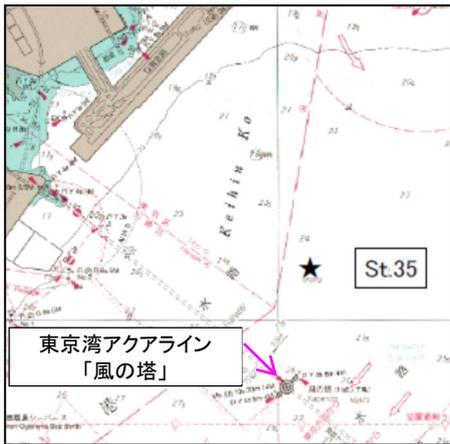
●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ツバクロエイ(r)	(出現せず)	(出現せず)	(出現せず)
魚類以外 (目立った種)	(出現せず)	(出現せず)	(出現せず)	ホンビノスガイ(+) サルボウガイ(r)
備考	タイラギ、アサリ、ムラサキガイ、ツキガイモドキ等の死殻が確認された。	生体は出現しなかった。 トリガイ、チノハナガイ、コウロエンカワヒバリガイ等の死殻が確認された。	生体は出現しなかった。 アカガイ、サルボウガイ、ウラカガミガイ等の死殻が確認された。	アサリ、シマメノウフネガイ、カガミガイ等の死殻が確認された。

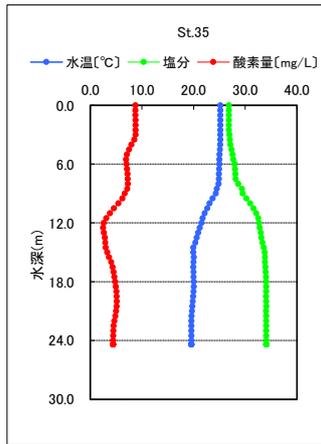
注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

調査地点：St. 35
調査地点位置



水質状況

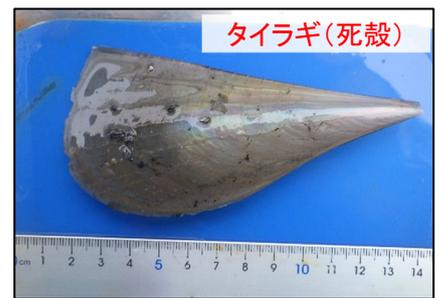


地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



尖った側を下にして海底に突き刺さったように生息する大型の二枚貝。東京湾の湾奥部では貧酸素水塊で死滅するため、殻長 10cm ほどまでしか成長できない。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



全長 35.0cm 体盤長 24.0cm
全幅 50.5cm 重量 1.20kg

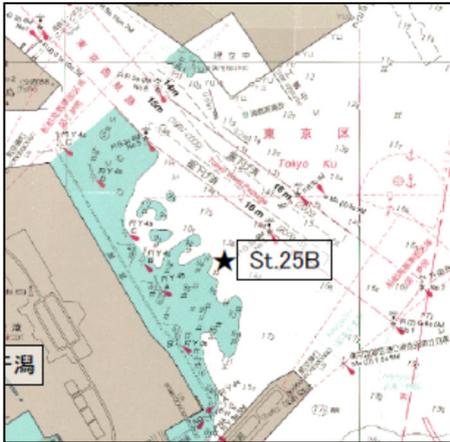


東京湾全域から出現記録がある。砂泥底に生息する。眼と噴水孔を砂の上に出し、砂中に潜んでいることが多い。胎生で、繁殖期は春。縞模様のある短めの尾にはアカエイ同様に毒の棘がある。ツバクロとはツバメのことで、幅広の体で泳ぐ姿がツバメに見えることからこの名が付いた。

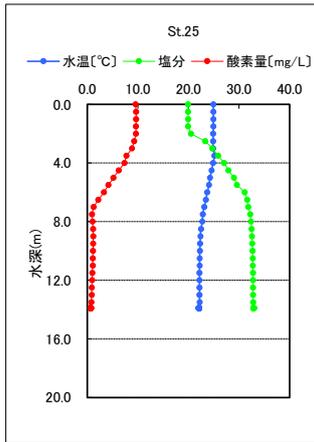


地中海沿岸原産の外来種。潮間帯の岩等の硬い基盤に足糸で固着する。漁網、ロープ等の漁具や漁船の船底に大量に付着して汚損被害を生じるだけでなく、夏季の高温により大量にへい死し、それにより水質汚染が発生することがある。東京湾内では近年減少している。

調査地点：St. 25
調査地点位置



水質状況



地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



湾奥では夏季の貧酸素水塊の発生により、ほとんどが死亡する。貧酸素水塊解消後に出現した稚貝は翌春に6cmほどまで成長する。

主な出現種 ※写真のスケール 1目盛:1mm



殻長 1.5cm ほど。内湾の泥底に生息する。殻は非常に薄いため、もろく壊れやすい。貧酸素水塊でも酸素がある期間に短期的に発生することが知られている。

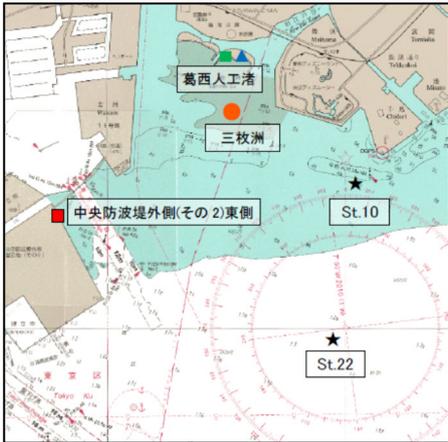


インド洋から西太平洋の熱帯水域が原産。殻長 6cm ほどで、殻の形はムラサキイガイとよく似ているが、殻の色が鮮やかな緑色である。水温が 8°C 以下になると死んでしまうが、水温が高い海域では越冬することができる。

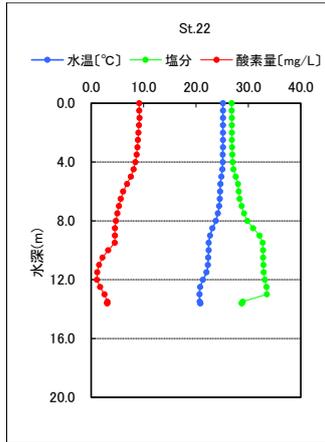


地方によりカスベとも言われるガンギエイは、秋から早春にかけて、長く伸びた角が四隅にある卵殻に入った卵を産む。ふ化までの 3~8 か月間流されないようにするため、この角が海藻等に引っかかる重要な役割を担っている。今回の調査では、卵が入っていない卵殻のみが採集された。【調査対象外】

調査地点：St. 22
調査地点位置



水質状況



地点状況



北西側には東京ゲートブリッジがある。悪天候のためかなり霞み、よく見えない。

採取試料



北米原産の外来種で、殻長 10cm を超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



殻長 10cm を超える大型種。内湾の潮下帯から水深 20m までの砂泥底に生息する。血液にヘモグロビンを持つため軟体部は赤みが強く、この名の由来となった。殻は薄く、表面には 42 本ほどの太い縦筋が並んでいる。

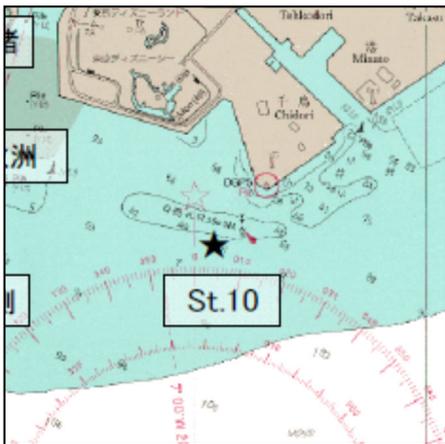


殻長 6cm ほど。内湾の潮下帯から水深 20m までの砂泥底に生息する。本種も血液にヘモグロビンを持つため軟体部は赤みが強い。殻は厚く、表面には 32 本ほどの太い縦筋が並んでいる。アカガイによく似る本種だが、この本数の違いで区別できる。

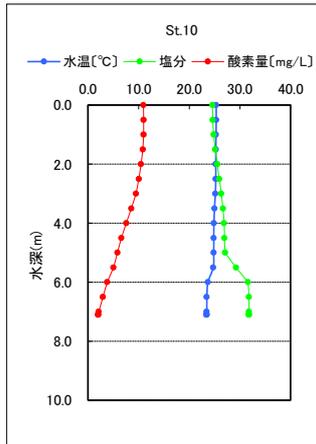


内湾の水深 5~30m の砂泥底に生息する。光沢があり美しい網目模様の殻を持つが、硫化物の影響で黒ずむ個体もある。

調査地点：St.10
調査地点位置



水質状況

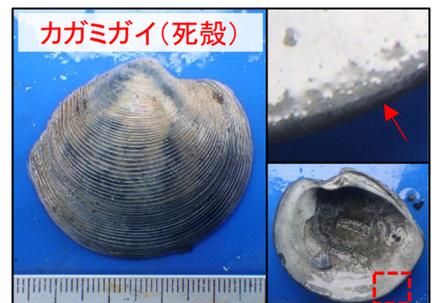


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



殻長 7cm ほど。内湾の水深 20m の砂泥底に生息する。やや厚めで光沢のある殻は白色で、規則正しく筋が入る。殻の縁は平ら。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



※解説は St.22 を参照。



※解説は St.22 参照。



カンザシゴカイ科は、石灰質の棲管を護岸や貝等に固着させ、その中で一生を過ごすゴカイの仲間。頭部の鰓冠(さいかん)を伸ばし、懸濁物を食べる。それぞれの個体は小さいが、群生して大量に固着し、設備等に悪影響を及ぼすことがある。今回の調査では棲管のみが採集された。 【調査対象外】

よく似るカガミガイよりも殻の膨らみが強く、縁がギザギザと刻まれている。

